

山陽特殊製鋼株式会社  
2021年度決算(電話カンファレンス)  
質疑応答(要旨)

開催日 2022年4月28日(木)  
出席者 代表取締役社長 宮本 勝弘  
取締役常務執行役員 高橋 幸三  
執行役員経営企画部長 八並 敬之

- Q. 2021年度第4四半期にO v a k oの利益が爆発的に増えた要因を教えてください。
- A. 製品のベース値上げが想定以上に進展したことや4月から予定しているエネルギーサーチャージの導入前に売上数量が増加したことなどにより増益となった。O v a k oが位置する北欧に比べ、エネルギーコストの上昇影響が大きい大陸欧州の特殊鋼メーカーが値上げを行ったことによって、O v a k oが売上数量を伸ばしたという側面もあると思う。
- Q. 2021年度経常利益217億円(O v a k oの決算期変更影響除くと198億円)に対し、2022年度経常利益見通しを140億円としたことについての考え方を教えてください。
- A. 世界的なインフレやロシアによるウクライナへの軍事侵攻、それに対する各国の制裁が今後の経済に影響するとみられることから、先行きは慎重に考えざるを得ないと判断した。
- Q. O v a k oが2022年1月からカーボンニュートラル(以下、CN)に移行したが、CN鋼材についての顧客の受け止めはどうか。
- A. CNへ移行して売上数量が大きく増えたということにはなっていないが、顧客からは好意的に受け止められているとみている。今後、顧客側でもCNに関する対応が求められることから、ニーズは増えてくると考えている。
- Q. 欧州の産業分野別の需要動向について教えてください。
- A. 自動車の最終需要は強い状況にあるとみている。注文から納車までかなりの期間がかかるという状況が続いており、また、半導体の使用を減らしスペックを落とした自動車でも受け入れるユーザーがいると聞いている。また、建設機械、産業機械の需要も強いとみている。一方で、インフレ等の影響で今後は不透明な状況にあるため、先行きは慎重にみている。
- Q. 原燃料価格の上昇に対し値上げが必要な局面にあると思うが、価格交渉の状況について教えてください。
- A. 2022年3月にお知らせした5千円のベース値上げは進みつつあり、その交渉時には、さらに次の値上げをお願いすることになると申し添えている。あらゆる企業で原燃料価格の上昇を販売価格に転嫁していく流れになってきており、当社もそのように進めていく。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。